



ラオス ラオス環境教育プロジェクト

住民が主体の環境保全

ラオス北部のルアンパバーンで実施している環境教育事業を通して、生徒と先生たちは環境について学ぶだけでなく、植林や有機農業、ゴミ分別・リサイクルといった環境保全のための技術も身に付けています。対象校では自主的な環境保全活動が行われるようになりつつあります。次世代育成にさらに積極的に取り組んでいくため、ルアンパバーン教員育成大学と協力して将来教員になる学生達への環境教育授業と環境保全技術トレーニングも開始しました。環境教育手法を習得した先生を少しずつ増やしていくことで、広い地域で環境教育が行われる土台を作っていけたらと考えています。

また、観光都市としてさらに発展しつつあるルアンパバーンではゴミ問題が深刻になっています。ゴミ処理システムや施設を整備していくことはもちろんですが、市民レベルでのゴミ分別やリサイクルを進めていかなければなりません。当協会のこれまでの経験を活かして人々の意識変革と行動変容を促していくことで、より良いコミュニティをつくっていきます。



教員育成大学との環境保全技術トレーニング



対象校で行われている自主的な環境保全活動

ハビタットクイズ?!

オーストラリアの50セントコインには国章が描かれています。国章にはカンガルーとエミュがデザインされています。オーストラリアには固有の珍しい動物がたくさんいるのに、なぜこの2種類が選ばれたのでしょうか？



次の4つから選んでください。

- ① 2つとも人間より大きくなるから
- ② 国民投票で選ばれたから
- ③ 2つとも前進しからないから
- ④ 2つとも外国の動物園にたくさんいるから

ご協力いただきありがとうございます

2023年6月1日～2023年11月30日 (敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 藤田 毅、樋渡 子エノ、丹羽 浩康、村野 啓子、内田 俊隆、笠 由美子、安藤 久美子、佐藤 和恵、田路 亮、宮本 知枝、野崎 美知子、富取 善彦、岡部 晃子、井村 亨、菊地 柳秀、秋本 敏文、中富 貴仁、濱口 吉右衛門、木下 ハツ子、滝澤 進、久山 純弘、伴 襄、一柳 とく江、大島 政子、下村 政裕、宮田 秀子、上山 佳彦、中真規、山村 より子、山本 博子、藤田 美江子、藤 恵美子

賛助会員 日亜化学工業(株)、SI- 熊本わかば、山口 実知子、堤 かなめ、久保庭 啓一郎、久保庭 和子、錫切 順子、三浦 教子、佐々木 節子、福迫 隆、下津浦 康裕

ご寄附 SI- 熊本さくら、山口 実知子、丹羽 浩康、内田 俊隆、大島 政子、中井 禮子、笠 由美子、石山 玄尚、石山 そめ、富取 善彦、井村 亨、錫切 順子、伊藤 志朗、藤本 貴也、藤岡 美千代、本郷 譲、久山 純弘、白澤 和子、野田 泰子、渡邊 きぬ子、川上 五郎、飯沼 しゅう子、樋口 謙一郎、佐藤 昭二、下村 政裕、星田 敦子、川畑 博敬、宮田 秀子、原田 義信、川崎 涉、鎌滝 たみ子、藤田 美江子、ソフトバンク(株)、三菱商事(株)、世田谷清掃局、逗子市体験学習施設スマイル棟、(株)新橋スタンプ商会

マンスリーサポーター 大下 悟、今村 稔、岡田 耕造、古庄 弘美、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 雄二、藤田 美江子、美甘 政門、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、日本郵船(株)、東京国際空港(株)5階事務所、アジアの女性と子どもネットワーク、逗子交流センター、鎌倉コネコ協会の、SI- 八代、橋本 久美子、山本 博子、丹羽 博康、佐藤 玲子、小川 幸代、田路 あつ子、白澤 和子、丸山 桂子、服部 由起、鈴木 敏子、佐藤 薫、久保庭 啓一郎、堤 優子、相模 久美、田村 恵子、堀内 ゆかり、中井 禮子、丹波 佐和子、川崎 涉、清家 弘子、吉川 久美子、井原 千恵、藤野 美樹、清水 純子、板橋 亜紀、佐々木 保成、石原 隆之

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、ちよだボランティアネットワーク、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、半蔵門駅前郵便局、三菱商事(株)、(株)電通、(株)新橋スタンプ商会、(株)EMA、Africa Note Ltd.、せんだい農業園芸センター、農事組合法人シャン・ドゥ・ミュリエ、木能実(wara no bag)、相山女学園大学、早稲田大学、大阪公立大学、東京女子大学、札幌市立大通高等学校、トラベルクリエイターズ、エクステンジャーズ、インターバンク、(社)日本フィナンソロピー協会、今井 杏奈、母袋 秀典、米田 智美、ハビタット福岡市民の会、こどもの夢ネットワーク、(一財)シルクセンター国際貿易観光協会、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コインわけにご協力いただいた企業・学校 ちよだで多世代交流 Ciao!

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、逗子市体験学習施設スマイル棟、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

© 2024 HABIATAT JAPAN ASSOCIATION

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子)

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2024年1月発行



HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No.44

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

ジェンダー平等を実現しよう

マリ・クリスティーン

「ジェンダー平等の実現」はSDGsの目標5に掲げられており、2030年までに達成すべき重要な課題です。しかし世界各地には、この実現を難しくする様々な社会問題や慣行が多数存在しており、中でもアフリカは深刻な状況です。

2023年7月にケニアから当協会のアフリカの事業を補佐して下さっているピビアン・ニャータさんが来日し、ケニアの現状に関して各地で講演をされました。家父長制度、男尊女卑、児童婚、FGM(女性器切除)、一夫多妻制度など、アフリカの女性を取り巻く現状の話を聴き、私自身も問題の大きさを改めて思い知ることができました。

この根強く残る深刻な課題を良い方向に導く手段として、ピビアンさんは女性の生理に関する状況の改善を提案されています。女性の体や生理に関しては、ケニアでは学校教育の中でも全く取り上げられることがなく、むしろ忌まわしいものとして生理用品の購入すら認められない状況だそうです。生理用品が手に入らず、学校のトイレも整っていないために、中学生くらいになると毎月数日学校を休み、河原の乾いた砂の上に座って終日を過ごすという話には、21世紀の現在にもこのような事実があるということに、驚いてしまいました。

新しく当協会が取り組む「女性の生理課題改善プロジェクト」は、ケニアの女性たちの未来を明るくし、社会で活躍できるようになるための重要な足掛かりになるとピビアンさんは強調されていました。

家父長制度や男尊女卑に起因する性別役割分業などは日本にも現存しており、ワンオペ育児、ヤングケアラーなどの話題が度々報道されます。それらが私たちの内面化した価値観(アンコンシャスバイアス)の中に残っているため、払拭することが難しいのです。ピビアンさんは生理状況改善プロジェクトに「Fly! Fly! Fly!」と名付けました。女性たちが大きく羽ばたいていくという夢がたくさん詰まった事業をしっかりと進め、アフリカでも、日本でもジェンダー平等の実現をめざしていきたいと思えます。



アフリカ事業のメンバーと鎌倉にて(左からマリ/ピビアン氏/ジャン氏)

女性のエンパワーメントと生理問題

一般的に生理期間は月5日間、その前後を含めればもっと長くなりますが、年間60日間(月に換算すれば2ヶ月)にもなります。ケニアでは適切な生理用品を買うことができないため、学校に行けなかったり、家事や仕事のままならなかったりします。女性は2ヶ月もの長い期間自由と行動を制限されるため、それは教育や社会活動の機会の減少につながります。

女性の生理における心身の辛さは男性にはなかなか理解されない側面があります。またケニアでは女性自身も正しい知識を学ぶ機会がなく、さらに生理や性はタブー視されているため、生理に対して偏見や我慢して当たり前という風潮が生まれます。

生理問題が解決されたからと言って、直ちに女性のエンパワーメントにつながるわけではありません。女性が自身の権利や生き方についてしっかりと考える力を養える教育や能力を十分に発揮できる仕事が必要になり、そして、彼女たちの働きに応じた報酬が得られる社会の仕組みも重要です。

女性が自身の可能性を信じそれを発揮できる社会を作っていくためには、たくさんのステップがあります。最初のステップとして、日本ハビタット協会は生理環境改善プロジェクトに取り組み、生理期間の心身の負担を軽減し、教育や社会活動の機会を少しでも多くつくりだしていきたいと考えています。



女性が羽ばたけるコミュニティを目指して

5 ケニア 生理環境改善プロジェクト Menstrual Hygiene Management FLY Project

人々の意識を変えてタブーや偏見をなくす

日本では少しずつ変わってきていますが、ケニアでは性や女性の生理についてオープンに話すことはタブー視されています。正しい知識を持っていないことが偏見にもつながるため、教育局と協力して小中学校にて性教育の機会を提供しています。性教育、特に生理については女子だけ学ぶことが往々にしてありますが、男子生徒も性について知ることで男女の相互理解につながります。そこで性教育は基本的に男女交えて行いつつ、細かい質問などについては分かれて行っています。男子生徒達は最初恥ずかしさもあり、レクチャーをあまり熱心に聞いてくれませんでした。回を重ねることで少しずつ関心と興味を持ってくれるようになりました。また、子ども達だけでなく両親たちの理解を深めていくため、母親には女性スタッフ、父親には男性スタッフが説明するなど工夫をしています。



子どもだけでなく、大人の理解や気づきが大切です!

現地の資材を利用した衛生用品

生理用品は1箱50ケニアシリング程(日本円で約50円)ですが、お金がなかったり家長である父親の理解が乏しかったりするため、買ってもらうことができません。生理用品がないため経血が服に付いてしまい、からかわれたり、また穢れというある種の偏見によって、女性達は外出を控えなければなりません。

このプロジェクトでは生徒と親が衛生用品一式を作れるよう布ナプキン、下着、石鹸の作り方を教えています。吸水性の高い布ナプキンは古着などを利用して作るのですが、実用的かつ女性が使いやすくなるようにカラフルなデザインやマジックテープを付けています。

布ナプキンは洗って使いまわすことができますが、感染症予防の観点から清潔に保つ必要があります。そこで現地で調達できるアボカドオイルを利用した石鹸づくりにも取り組んでいます。アボカドはとても一般的な果物で日本のものに比べてとても大きく、果肉をすり潰してから絞って油分を抽出します。自然の着色料や模様を付けるなどの工夫も生まれています。

下着づくりも古着などを利用してありますが、女子生徒だけでなく男子生徒にもトランクス作り方を教えています。もちろん男子が縫い物を学ぶ機会はこれまでなかったので、自分でトランクスを作ることは画期的で、男子生徒達は初めて経験する縫い物がとても新鮮だったのか、楽しみながら取り組んでいました。



国際ガールズ・デー

10月11日は「国際ガールズ・デー」に制定され、女の子の権利保障や男女平等、社会参画等の促進を広く呼び掛けるイベントが世界各地で行われます。日本ハビタット協会も啓発活動キャンペーンを開催し、小中学校の先生と生徒をはじめ住民など310名が参加しました。

生理プロジェクトでは、女性が生理による精神的かつ肉体的負担から解放され羽ばたけるコミュニティをテーマにして「FLY」と「No More Limits」を合言葉にしています。会場まで村を練り歩きながら参加を呼びかけるのですが、その際手を広げて羽ばたくジェスチャーをしながら行進する姿がとても印象的でした。イベントでは模型を使いながら生理の仕組みを教えたり生徒達に質問を投げかけたりしたのですが、生徒達は恥ずかしがりながらも質問に答えてくれました。また、石鹸や下着の作り方のデモンストレーションを行いました。

お互いの相互理解のために少しずつ前進しています!



6 ケニア 水プロジェクト

各家庭で水が使えるように

ケニアの農村地域は上水道が整っていないため、雨水や池、川の水に頼って暮らしていますが、乾季では安全な水にアクセスするのが非常に難しい状況です。井戸等の公共的な給水設備は多くの世帯に水を供給できる一方で、修理やメンテナンスといった維持管理が難しい部分があります。そこで、当協会では家庭レベルでの給水環境改善に取り組んでいます。

これまでに100名の村人に対して雨樋設置トレーニングを実施し、自主的に雨樋を設置した50世帯に貯水タンクを届けました。ホームベイ郡の民間水道会社と協力して、ポリ塩化アルミニウム凝集剤と塩素剤を使った浄水のデモンストレーションとトレーニングを5村で行いました。

薬剤を使った浄水は非常に効果があり、池で汲んできた茶色く濁った水がみるみるうちに無色透明になるのを見て村人達は驚いていました。浄水にかかるコストも0.04ケニアシリングと日本円で1円未満のため、継続はもちろんのこ池や川の水に頼っている多くの地域の水問題の解決が期待されます。

世界手洗いの日

10月15日の「世界手洗いの日」に合わせて手洗いの啓発活動キャンペーンを実施しました。ホームベイ郡カポンド地区のコクワニョ・イースト・コミュニティの学校や村人の総勢280人以上が参加しました。感染症の防止と命を守るために手洗いの重要性を伝えるとともに、参加者たちは簡易手洗い場「Tippy Tap」の設置方法や正しい手洗い方法について学びました。

1日に「20ℓ」を2~3回汲みにいきます…



浄水のデモンストレーション



特に乾季は安全な水がありません…

水プロジェクトでの家庭レベルの給水改善

- 雨水を効果的に活用していくための集水効果の高い雨樋設置トレーニング
- 1ヶ月分の生活水を確保できるよう 300ℓ貯水タンク提供
- 池と川の水の浄水技術トレーニング



6 ケニア スマイルトイレプロジェクト

各家庭にトイレを

2019年8月からJICA草の根技術協力事業として実施してきましたケニア西部ホームベイ郡での衛生環境改善事業「スマイルトイレプロジェクト」は最終フェーズに入りました。これまでに実施した63村6,174世帯においてトイレ設置率が事業開始前は50~60%でしたが今ではほぼ100%を達成しました。

トイレがなかった時は野外排泄をせざるを得なく、昼間や人目を避けるなど心身ともに大きな負担となっていました。どんな時でも使えるようになりました。建設されたトイレは掃除もでき、ハエや異臭が立ち込めることもなく、清潔で安心して使うことができます。トイレの建設により下痢の発症がほとんどなくなりました。

最終フェーズ終了後は事業を現地協力団体の「SAWA YUME KENYA」に継承していきたいと考えています。それにむけて現地の人材育成をはじめ、保健省や各村の衛生委員等と協力した運営体制の構築、資金調達を進めています。



私たちの自慢のトイレができました!!



スマイルトイレプロジェクトのトイレ建設

- 住民たちの衛生意識の向上を促すワークショップ
- 衛生的なトイレを建設するための建設技術指導
- 所得向上のための農業指導、マイクロファイナンス

世界トイレの日

11月19日の「世界トイレの日」では、啓発活動キャンペーンに幅広い世代の住民が200名以上参加しました。さらに、同じホームベイ郡で活動している長崎大学チームとSATREPSチームも参加して下さり、イベントを盛り上げてくれました。

ケニアにはさまざまな問題や課題があるため、一つの団体だけでなく、より多くのステークホルダーの協働が求められています。今後も協働を促進して一つひとつ問題を乗り越えていき、より良いコミュニティと地域社会をつくっていききたいと思います。

